

# みんなの健康ラジオ

『RSウイルスから赤ちゃんを守る  
—妊娠中のワクチンという選択肢—』

(2026年9月24日放送)

横浜市産婦人科医会

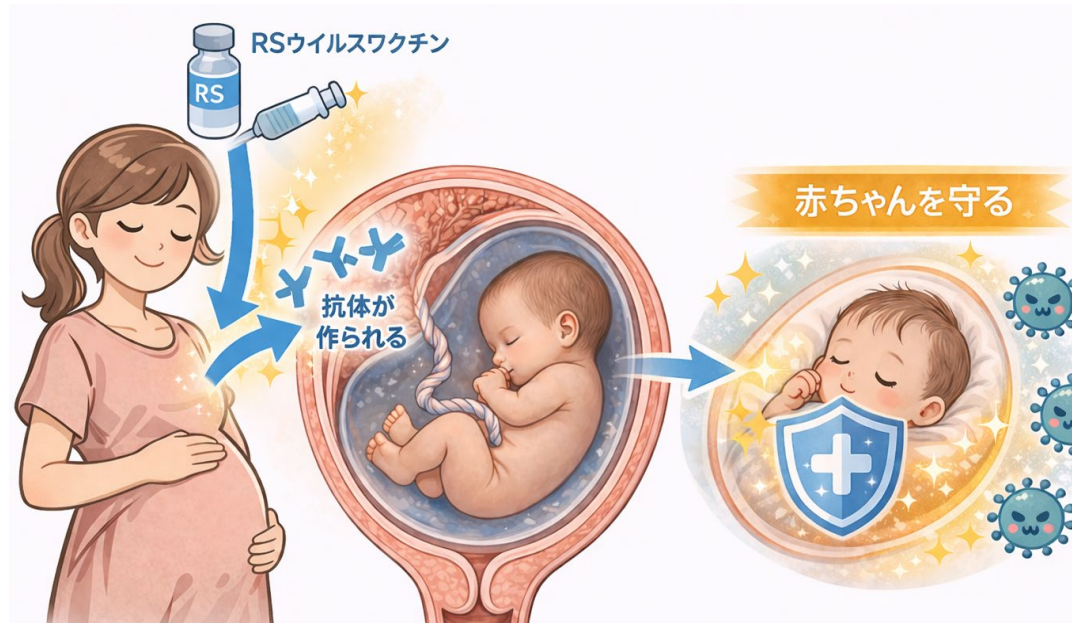
横浜市立大学附属市民総合医療センター

総合周産期母子医療センター

小畑 聡一郎

# RSウイルス母子免疫ワクチンとは？

- 妊娠中のお母さんに接種するワクチン
- お母さんの体内でRSウイルスに対する抗体が作られ、胎盤を通して赤ちゃんに届けられる。
- 産まれて間もない赤ちゃんを守ることができる。



# アブリスボとは？

- 現在、妊婦さんに接種できるRSウイルスワクチン
- 臨床試験では生後3か月までの赤ちゃんで重症化を8割減らす効果が示されている。

 妊娠中の接種で赤ちゃんを守ることができる。

- 現在定期接種の対象となっており、接種の対象期間は妊娠28週0日から妊娠36週6日。
- 十分な抗体を赤ちゃんに届けるために接種からある程度の期間が必要。
- 接種後14日以内に産まれた赤ちゃんについては十分な有効性が示されていない。

# 副反応は？

- 接種した場所の痛みや腫れ、頭痛、筋肉痛が見られることがある。
- 母体の合併症によっては接種を控える必要がある場合もある。



- 効果だけではなく、こうした点も理解した上で接種を考えることが大切。
- 母体の合併症など、必要に応じて主治医に相談することも重要。

# 2026年から定期接種に

- 2026年度から定期接種の対象となり、無償で接種することが可能になった。
- 接種対象は妊娠28週0日～妊娠36週6日。
- 接種場所、里帰り時の手続きは妊婦健診先や住民票のある自治体に相談する。

迷われている場合には  
一度医療機関・自治体にご相談を